

11月1日現在	
人 口	7,616(+ 4)
男	3,769(+ 1)
女	3,847(+ 3)
世帯数	1,720(- 1)

カッコ内は前月との比較

十一月十九日任期満了にともなう中里村議会議員一般選挙は、来る十月三十一日村内十六ヶ所投票所で、午前七時より一斉におこなわれました。

新村議紹介

（順不同）

新議員 投票率

議員選挙
十八名決まる
九四・八〇パ
町村合併して中里村發足以來
第五回目の改選であるが、移り
ゆく社会情勢に処して、村の
産業開發及び近代化は必須の課
題とされ、明るく住みよい郷土
の建設に力づよい前進が期待さ
れてゐます。

今回の選挙は、二十四日の告

示と同時に王五日の續切りも
で、二十一人の立條捕虜
あり、議員定数十八名に對
名の超過とあつて、激しい
戦が展開され、身近を遠筆
つただけに、投票率も今迄
い高率を示し、村民の大き
待をになつて、十八名の

なお、選挙当日の有権者は五、二百四十八男、一千四百八十二人、女、二千七百二十一人、投票者数四、九百四十二人（男、三千二百五十六人、女、一千六百八十七人）、投票率は全体九十四・八〇（男九十四・九パーセント、女九十四・六六パーセント）と前回の九十三・四パーセントを上廻る成績を上げました。

なお、選挙結果は次のとおりであります。

二五四	山田 章次
二四九・五六五	樋口 省三
二三〇・三五五	高橋 熊藏
二三四・五〇九	樋口 弘
二二〇	小林 豊政
二二七	富井 博
二〇八	上村 賢造
二〇七	桑原 寛
二〇六・四六八	樋口 孫三
二〇六	服部 武勇
二〇三	岡村 民三
二〇一・四五六	樋口 与三郎
二〇〇	山岸 小政
一九九・四〇二	大島 正一

おしらせ

風と共に冬將軍が駆足でやってきました。ややもすると家の中にこもりがちになるお母さん方、手足を思いっきり伸ばしバレーボールをして、健康増進をはかりましょう。

十二月の婦人バレーボールの練習日は、二日と十六日です。

中里村青年問題研究集会

来る十二月四日五日、津南町風渡館において、中里村青年問題研究集会が開かれます。これは

きびし

昨年の秋、わが県立赤城青年の家、宿泊棟の建築が次第に進んで来たころ、室内の聲光燈の消し方が問題になった。建築設備の計画によれば宿泊室の聲光燈の点滅は、宿泊棟にあるリスター室のスイッチで、全燈いっせいに行なうようになっていて、個々の聲燈ごとには、点滅することではできないとのこと。

一燈ごとに点滅するものとは、一燈かと思つていた私には、これは意外なことだったので、その理由を聞いてみると、消燈がいつせいにできてよい。個々に消すやうになってゐると「消燈時間」が守られない」とのことであり

読書と三

の
再造 ①

他の県立青年の家にも、そうなっている所があるとのことであつた。

消燈を形式的に揃へることを重くみる立場からは、あるいはそのとおりであつた。しかし私は承知できなかった。

規則は、ひとりひとりがそれを守るように自分の意思で自己規制をするところに意味があるであつて、個々の意思や事情と無関係に有無をいわさず消燈してしまふのは、青年の教育機関としてはいかなるものであろうか。多少は消燈時間がまちまちになつても、ひとりひとりが消燈時刻を意識して、自分で消

さて青年の家は施設設備が大
どとのつたところで、三月二
日から研修業務を開始した。
正しく強く美しうあたたかく
きく」を研修標語とし、職員
もこれを職務態度とするよう
求め、特に研修生に対しては
さく、かいい態度で接すること
を「希望した。研修生には、右
標語を守りながら、楽しくし
「もびり」としたまじい態
で研修するように呼びかけた
事業開始後しばらくしたころ
修にきた知人から少しきびし
が足りないのではないかと言
れた。その具体的理由とし
「消燈時刻を守らない者があ
刻まれていたと云うです。
老而益尊」(老いてますます

「指導や批判が生ぬるいと言ふの家の例をもあつた。いつせいに消燈したと云ふのもあつた。その他の青年の家の例をあけて批判してくれだ。」

わたしは、その批判を当然として、青年の家側の指導を反省しながらも、強制的にいつせいに消燈してしまうことは批判的で、そうした指導をきびしい態度と考えることにしたが、これは消燈のことには機械的だった。これは消燈のことには妥協するところからである。

『月刊通敵雜誌より引用、興立赤松壽年(一)』

「よい英書をたくさん読んでおられるから。さあ、おはいりくだされうと、きげんよく招き入れ」

県と県医師会、新潟日報社などの主催による四十六年度新潟県母子衛生大会が、去る十一日八日新潟市で開かれました。この大会は、県下の母子衛生関係の指導者等の参加を求め、日常における母子衛生事業に優秀な成績をあげた市町村や優良乳児、三才児の養育者などを表彰するもので、去る十二日、県教委は東頸城郡松山町立中学校で之山町立中学校で中学校体育主任を兼ねてハンドボールの講習会を行った。これは県教委が来年度からハンドボールを体育の正課に取り入れるためで、まだ県下の中学校でハンドボールを学習

主大会で表彰
影し、母子衛生運動の推進をは
かろうというものです。
なお、優良養育者はつぎの方
々です。

○ 優良乳児養育者
上原 アキ (通り山)
○ 優良三子虎養育者
阿部 紀子 (高道山)

中里文芸
十一月投稿

俳句

大泉
薄れゆく記憶を炎やす落葉の芯
陽を重ねまた陽をかきねれ落葉
露丘
ぐるぐるや巾花を走る紅しづく
勤行の尼僧を待たす菊花屋
梅陽
空箱架の寒家の土産とつしりと
箱架ぶすま君が傾分の子が帰る
金の葉が降ると生生の娘の独語
おのえ

が葉とほす苔沙の黄ひくる 深雪
 静ま居ぬ柿が夕陽をほしいまま
 葉葉炎く胸に余燼をくすぶらせ
 がらしふく黒が蘇生の野の鴉
 涼子
 短歌 阿部清枝
 体の音は遠くにこだまして
 百有余年の家くずれゆく
 出づこともなれど娘等と休日
 共に居たれば我れ満ちたりぬ
 葉沙緒
 精に報いる如く菊の花
 匂い居る道に花嫁の行く
 葉の細き歩道を心よく
 淡き陽浴びて吾子と歩めり
 なくてリズムに乗れぬ吾子の
 笛日重ねて吹く景色よく
 山崎了子
 やけが渴きし音を足もとに
 投げ落したる赤き柿の葉
 風に木葉の舞う雨空に

